

CIP Newsletter

ニュージーランド出身香取市国際交流員
花田サミュエル卓也 (サム)

佐原の大祭秋祭り



佐原での秋祭りは2回目です。昨年の秋祭りでは観光と仕事として見るだけでしたが、今年は参加することができました。夏も参加しましたが、秋は今まで経験したことがないことが沢山できたので、その感想を今回のニュースレターで話したいと思います。

夏祭りに下仲町でできた友達から「秋祭り仲川岸区と一緒に参加しない？」と連絡があり、またいい経験になると思ったので、すぐ「イエス」と答えました。夏祭に参加した時は初めての体験でしたが、夏祭り前にコロナになってしまい、あまり準備や練習に参加することができませんでした。今回、リベンジを果たし、秋祭りではいろいろ参加することができました。



仲川岸区の皆さんが優しく、暖かく受け入れてくれ、初日から青年会に入らせてもらいました。青年会に入るとある程度責任を持ち始め、踊りの練習や祭りに顔を出すだけでなく、その間にあるすべてのことに携わることになりました。山車の準備や、遅くまで残って祭りの後片付けをしたり、区内のいろいろな人の家を回ってお礼を言ったり、祭りを円滑に進めるために必要なさまざまな用事をこなしたりしました。

山車の飾り付けの手伝いで、山車を構成するさまざまな飾り物が、どのように配置され、どのように収まるのかを見るのはとても面白かったです。巨大な群衆に囲まれることなく、こうした細部を間近で見ることができ、町内の皆さんから歴史を学ぶことができるのも、嬉しかったです。



夏祭りは、必要なものはすべて借りましたが、来年どっちも参加するつもりなので、今回自分の股引き、腹掛、ポーチなどを作ってもらいました。



祭り3日間でいろいろ体験させていただき、少しづつ踊りや歌もできるようになってきました。大天も初めて上がることができました。大天からの景色はすごく綺麗で、電線を退かすのも面白い体験でした。また、今回もテコを何回か持たせてもらって、最初の時よりもう少し動けるように、長い時間を持てるようになりました。



夏祭り秋祭りのすべては貴重な体験と勉強になり、皆さんが優しく教えてくれた事に感謝しています。来年はもっとできるように頑張りたいと思います。夏と秋どっちも様々な人にお世話になりました。将来的にはいろいろな形で会ったり、一緒に仕事ができたりするのを楽しみにしています。



FacebookのLittleEdoSawaraで香取市での生活や観光、ニュージーランドと日本の文化の違いなど多く発信しています。日本語でも文書を書いているので、見ていただけたら嬉しいです。これから他のことも挑戦してみたいと思っているので、英語・企画・お手伝いでも何かあれば、是非3階の商工観光課でお声掛けください!



現在、SNSを通してタイ人に香取市のことを発信していますが、香取市のみなさんにタイのことを発信できていないと感じました。学校や市民の方々との異文化交流、タイのことでなくても在日外国人としての意見交換など、この月刊のようにお互いのことが少しでも知り合える機会ができればうれしいです！お手伝いできる企画などがあれば、ぜひ商工観光課までお声がけください。



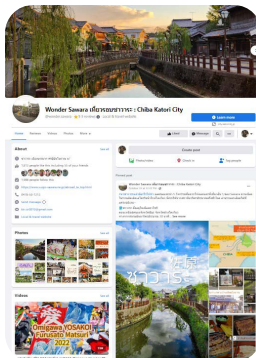
タイのこと…聞いてみタイ？

タイ出身香取市国際交流員 ティ(ラタナウィモンチャイ チャヤンクン)



2023年
11月号

タイ人向けに香取市の情報をフェイスブックページ「Wonder Sawara หนึ่งครอบครัวหนึ่งเมือง : Chiba Katori City」にて発信しています。可能な限り日本語の文章も付けるようにするので、ぜひのぞいてみてください～(フォローをしていたただけたらうれしいです！)



FBページのQRコード →



または、フェイスブックアプリで「Wonder Sawara」を検索

「佐原の大祭 秋祭り」の様子です



わっしょい!
わっしょい!

4年ぶりに開催した「栗源のふるさとイモ祭り」



プロフィール

ティ

ラタナウィモンチャイ チャヤンクン



タイ、バンコク出身。CHULALONGKORN大学教育学部美術科卒。ウェブデザイナーとして1年間勤めた後、語学のため2008年に初来日。日本語学校を経て専門学校のグラフィックデザイン科に進学。卒業後は帰国し、新潟県湯沢町や群馬県みなかみ町のタイ語版パンフレット作製の依頼を受け、両町がタイの旅行博に出展する際にも通訳としてお手伝いをしたことが日本観光に携わるきっかけとなった。2018年再来日し、タイ語版編集者としてインバウンドウェブメディア会社に入社。2021年9月からは香取市の国際交流員として勤めている。

灯ろう流しはリバーサイド、ロイクラトンもリバーサイド



灯ろう流しといえば、夏・お盆中に行うことが多いでしょう。日本の灯ろう流しは地域によって由来や目的が違います。お盆に帰ってきたご先祖様の魂をあの世へ導く送り火として行うところがあれば、戦争で亡くなられた方の霊を弔うため、また、地域の観光推進として行うところもあります。香取市でも毎年8月に「さわら・町並み・夕涼み」に併せて、灯ろうに願いごとを書いて小野川に流す「夢灯ろう流し」があります。

小野川に流す夢灯ろう流し

タイにも灯ろう流しに似たような行事があります。それは大陰暦12月の満月の日に葉っぱや花で作った灯ろうを川に流す「ロイクラトンลอยกระทง」と言います。

言葉の意味

ロイ ลอย 浮かべる
クラトン กระทง バナナの葉などで作った縁のある器

この「ロイクラトン祭り」の由来には諸説ありますが、私は子どもの頃からよく聞いた話では、川の女神である「プラ・メー・コンカー」に、困ることなくいつも水が使えるようにしてくれることに感謝の気持ちを、そして、川を汚してしまったことに謝罪の気持ちを表すためにクラトンを流すそうです。他にも仏教に関わる説が多々あります。



川や公園内にある池に流されたクラトン

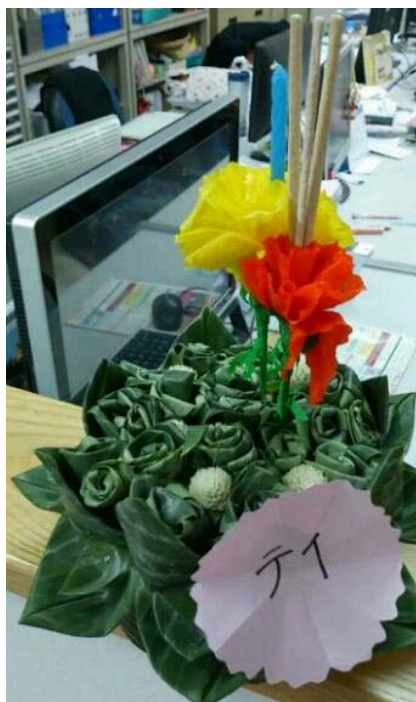
いつから始まったかは明確にわかりませんが、ロイクラトン祭りについて記載された一番古い書物は約180年前に作成された物です。それによると当初の灯ろうは様々なものを使って川に流しますが、輪

に切ったバナナの木の幹に花びらの形に折ったバナナの葉っぱをつけて、蓮に見立てたクラトンを初めて作ったのが約500年前のスコタイ王朝のノッパマート妃でした。それに加えて、色鮮やかな花を飾って豪華で美しいクラトンに進化しました。

時代とともにクラトンも変わります。今から20年位前までは、バナナの幹の代わりに発泡スチロール、蓮の花びら形の紙をピンクと白のグラデーションに染めて飾り、金色の紙テープで発泡スチロールを隠すように巻いたものになります。その後、環境問題に対する意識が高まり、発泡スチロールは分解されるのに50

年間もかかることから、「発泡スチロールは環境によくない、川を汚染する原因」といった声が多くなります。川の女神に謝罪の気持ちを表すどころか、いつも以上に川を汚すことになりました。

こうしたことから、アイスクリームのコーンやパン、野菜と果物で作ったクラトンが代替えとして作られるようになります。分解されるのにパンは3日程度、果物と野菜は2週間程度だそうです。発泡スチロールと比べたら一瞬のようで、一見とてもいいアイデアに思われましたが、魚が食べる量は、流したクラトンの量に全く追いつかず、クラトンが腐り、発泡スチロール以上に水を汚す事態に陥りました。その後は、溶けてなくなる氷のクラトンや回収して再利用する口のクラトンなども使われています。

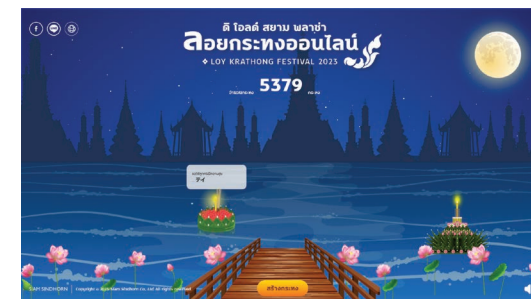


参加したクラトン作りイベントでバナナの葉っぱで作ったクラトン

今は、なんでもオンライン化する時代なので、ロイクラトンもオンラインでできます。ロイクラトン祭りが近づくと、色々な企業やポータルサイトが特設ページを公開します。自分でクラトンの形や流す場所を選ぶことができ、わざわざ移動したり、人混みにもまれなくても、ロイクラトンができます。クラトンを流すわけではないので環境の面でもとても有効です。



<https://season.sanook.com/loykrathong/>



<https://theoldsiam.co.th/loykrathong/>

オンラインでロイクラトンができるウェブサイトの一部

とはいえ、現地の賑わっている雰囲気や出店を楽しむのが祭りの醍醐味です。実際に流す場合、環境に配慮して、素材を自然にやさしい木の針などを使ったり、一組に一つのクラトンにしたりすることを、自治体が呼びかけています。伝統を守りながら環境を大切にすることも大事だと思います。

今年のロイクラトンは11月27日になります。ちょうどタイに旅行に行く方はぜひ近くに開催されるロイクラトン祭りに参加してみてください。また、成田市にあるタイの寺院「ワットパクナム 日本別院」では11月26～27日にロイクラトン祭りを開催するそうです。時間があれば行ってみたいはいかがでしょうか。



2020年にワットパクナム日本別院で開催されたロイクラトン祭りの様子 (出典:<https://www.facebook.com/WatpaknamJP>)

